

豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり

1 社会資本の概要

豊橋の路面電車は大正14年に開業し、民間事業者である豊橋鉄道(株)が運行していますが、市民からは「市電」の愛称で親しまれています。終戦直前の大空襲による被害からいち早く復活し、モータリゼーションの進展により全国の多くの都市で路面電車が

廃止されるなかで、東海地方唯一の路面電車として90年近く市民の足として走り続けてきました。近年、路面電車は環境に優しい乗り物として注目されており、移動手段としてだけでなくまちづくりとの連携など、幅広い活用が期待されています。



「ほつトラム」



「市電のある風景」水彩カレンダーの発行

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「とよはし市電を愛する会」は、全国で路面電車が衰退する中、豊橋駅前大通りの整備計画に伴い、市電に関心を持つ一般市民が、「市電を活かしたまちづくり」のテーマのもとに、平成2年に設立しました。この会は「市電を活かしたまちづくり」を進める上で、関係者である豊橋市と市電の管理者である豊橋鉄道をつなぐ役割を担っており、環境問題や福祉問題、都市計画、公共交通政策といった見地から、実践活動を重視した市民活動を展開し、平成11年の路面電車サミットの開催や市民、企業などの多くの方々からLRV導入に向けた基金を募り、平成20年のLRV「ほつトラム」の導入実現に貢献しました。現在、まちの景観としてとらえる「見る市電」、乗車促進をは

かる「乗る市電」、まちづくりに活かす「考える市電」を3つの柱として活動を展開しています。毎年4月10日を「市電の日」、6月10日を全国「路電の日」として趣向を凝らしたイベントを展開しているほか、市電をPRする「豊橋市電唱歌」の制作や「市電のある風景」を刷り込んだカレンダー・絵ハガキの作製、機関紙「市電文化」の発行、市民版小冊子「古くて新しい路面電車」の発行、全国の市電の走る町への視察研修など多彩な活動を展開しています。



「見る市電」(納涼ビール電車)



「考える市電」(第4回路面電車サミット99豊橋)

3 地域への成果や波及効果等

「とよはし市電を愛する会」では、設立以来、市電の日のイベントとして毎年会独自の企画運営で地元豊橋市の色々な団体と連携した「国際交流電車」「コーラス電車」「孫ころ電車」といったイベント電車を行い、イベントを通して長年市民との交流を行い、人気を得てきました。更に平成23年からは豊橋鉄道、豊橋市と連携し、規模を拡大した「ええじゃないか豊橋 市電の日イベント」を実施しており、多くの市民の参加がありました。



「孫ころ電車」



ミニほつトラム乗車



●受賞者

とよはし市電を愛する会
会長 伊奈 彦定

豊橋鉄道株式会社
代表取締役社長 伊藤 正雄

●コメント

おりしも市電開通90周年で、とよはし市電を愛する会設立25年の節目の年に、栄誉ある賞を受賞し一同感激しております。また、7月には第14回中部地区路面電車サミットを豊橋で開催する予定で、これからも次世代のために「市電を活かしたまちづくり」にますます磨きをかけてまいります。

●活動内容

「市電の日」のイベント開催、全国市電の走る町への視察・研修、機関誌、カレンダー等の発行

●活動の経緯

平成 2年 設立
平成19年 豊橋市へLRV市民基金贈呈

所在地

愛知県豊橋市

活動主体及び連絡先

とよはし市電を愛する会
(0532-51-5610)

対象となる社会資本

豊橋鉄道東田本線
※管理者：豊橋鉄道株式会社



手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集